

映画と講演

「映画をとおして人権を考える」

第3回人権問題講演会

11月6日(日) 13:30～16:30
コムズ 5階 大会議室

映画：「誰も知らない」2004年公開作品
監督：是枝裕和

講演：「児童虐待事件の現場取材して」
フリーライター
杉山 春 さん

生きているのは、おとだけですか。

誰も知らない
Nobody Knows



Do 主催：NPO法人「Do」
(松山市委託事業)

映画と講演

「映画をとおして人権を考える」（入場無料・定員100名*申込み不要）

映 画：「誰も知らない」 監督：是枝裕和(2004年公開作品)

2004年に公開された是枝裕和監督の日本映画。実際に起きた事件を題材にし、過酷な状況下で協力して生き抜く子どもたちを描いた傑作。長男を演じた当時まだ14歳の柳楽優弥が、第57回カンヌ国際映画祭において史上最年少および日本人として初めての最優秀主演男優賞を獲得するなど、国内外で高い評価を得た。

(あらすじ)

子ども4人に母ひとりの母子家庭。アパートに引っ越す際も人目に付かないようにこっそりとやってきた一家は、周囲の視線を気にして家族構成を秘密にし続けていた。子どもたちはそれぞれ父親が異なり、出生届すら出されておらず、学校にも通っていない。母は新たな恋人ができる、それを境にほとんど帰宅しなくなる。たまに生活費を渡すだけで、あとは放置。三人の弟妹の面倒をみるのは長男の明。彼はアルバイトすらできない年齢だったので、母から渡された生活費だけが頼りだった。やがて母は完全に姿を消す。電気や水道が止められ、食料を買うこともできない環境の中で、子どもたちは懸命に生き延びようとするが・・・。



「誰も知らない」



講 演：「SOSはなぜ届かなかったのか、児童虐待事件の現場を取材して」

フリーライター

杉 山 春 さん

1958年東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。雑誌編集者を経て、フリーライターに。これまで子育てや親子問題、あるいは子殺しなどをテーマに取材・執筆をしてきた。著書に「満州女塾」(新潮社)「ネグレクト育児放棄-真奈ちゃんは何で死んだか-」(小学館)「ルポ・虐待-大阪二児置き去り事件-」(ちくま新書)

主催：NPO法人「Do」(同和問題を考える市民の会)

理事長：那 須 洋

〒791-8036 松山市高岡町171-8(高松)

事務局：高 松 さよ子 (携帯：080-6394-6924)

後援：松山市教育委員会・松山市公民館連絡協議会・松山市人権教育推進協議会

愛媛新聞・NHK松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・FM愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・愛媛CATV・リビングまつやま